

第17回「戦争と医の倫理」の検証を進める会 世話人会会議報告

- ◇日時 2012年3月25日(日) 10時30分～16時
◇場所 全国保険医団体連合会 6階会議室
◇参加者 赤羽根巖、西山勝夫各代表世話人、苮昭三、光石忠敬、吉中丈志各常任世話人、住江憲勇事務局長、松村高夫世話人。
(事務局) 杉浦秀明、師岡聡、木村徳秀、原文夫、室井正、小林耕治各氏。
◇議長 住江憲勇事務局長

1. 第16回世話人会会議報告の確認について

報告を了承。

2. パネル案の検討について

(1) パネル第1部～第5部案の検討

＜パネル第1部～第4部の案について＞

- ① 前回世話人会でパネル案の中で資料の変更や補強の必要を確認したパネルの整理状況が報告され、確認した。そのうえで、最終案作成にまで至っていないパネルについては、資料提供等の担当者を確認し、次回提出できるよう努力することとした。
- ② 江田いづみ先生(慶応大学)に、中国・中国語にかかわる校閲のご協力をいただいたことが報告された。中国語の読み方(ルビの付し方)や表記、内容上の訂正の必要などのご指摘を反映することとした。

＜パネル第5部の案、及びそれに関連する意見について＞

- ① 西山代表世話人より、第5部の検討会議(西山、山口、吉中、住江、室井)での検討等をふまえて整理してきたパネル案が提案された。討論の中で、シュナイダー教授から写真引用の許諾や経歴の整理、謝罪表明(和訳文)の使用許諾を得ること。軍事関係のパネルでは、有事法制の説明部分を要約整理のうえ、赤紙と公用令書を例示し、現在でも戦争動員の危険性があることなどをわかりやすく表現、整理していくこととした。
- ② 光石常任世話人より修正案が文書提案され、討論の結果、「日本で多数者は、少数者に同情はするが、少数者が自己主張して旗印を上げ出すと、少数者の排除、無視にとりかかる」などの内容は、一般的には重要な指摘といえる。但し、日本の医師・医学者が十五年戦争時において行った戦争医学犯罪の背景に、ベンサム「最大多数の最大幸福」との功利主義の考え方があるとの指摘については、イギリス社会思想史での歴史的な位置づけからも無理があり、十五年戦争時に731部隊が犯した罪の思想背景として、そのような考え方が存在した事が現時点では歴史的に検証出来ないことから、考え方は理解するがパネル内容に掲載することは見送る事とした。
- ③ 小島常任世話人から、「日本の医学界に所属する一員として」当会として、今回の「検証」を踏まえ、パネル案の最後の部分に1)中国等の人々に謝罪する、

2) 日本医師会など日本の医学界として謝罪する事を求める、3) アジアの地域や国の医師・医療従事者との連帯の運動を起こす、4) 現代の医療行為が医師・医学者の犯罪行為と同じ轍を踏まないよう医療倫理・生命倫理の確立に努力する、を含んだ声明の形式でパネルの最後に提示してはどうかとの文書提案が寄せられた。

討論の結果、提起の内容自体は重要なものである。しかし、史実に基づく歴史検証というパネル展示の趣旨の中で当会が謝罪表明を行うことは、パネル展示の目的が「検証から謝罪へ」の傾向に導くようにも受け取られかねず、パネル展示の趣旨を見る人に誤解させるおそれもある。このため、パネル展示と会としての謝罪表明のあり方は区別して検討し、対応することとした。

- ④ 小俣常任世話人から要望意見が文書で寄せられた。その要点は、1) 公私多忙により常任世話人を辞任したい。京都で開催予定の国際シンポジウムは、近畿の世話人に担当をお願いしたい。2) 歴史検証パネルについて、人体実験に関与した加害者個人のデータ、考え方等について検証し付加すべき(石井四郎の生没年を含む)。3) 謝罪問題で戦前生まれの方からの意思表示がない問題。4) 医療倫理の考え方は統一が困難なら併記。それが不可能なら本会の名称から「医の倫理」を削除すべき。5) 歴史検証は大切だが、戦時中の精神病院の入院患者の死亡統計は背景の歴史的分析がなく、倫理的結論が出て来ない。

以上について、次の通り対応することとした。1) については、代表世話人等で小俣常任世話人と話し合いの機会を持つよう努力する。2) ~ 5) の項目については、パネル作成にかかわるご意見は、会内論議の到達状況、一致点をふまえ可能なものは最終案作成に反映する。会の名称については発足に至る過程で小俣常任世話人も含めて議論を重ねた中で決定したものであり、現時点で変更の必要性は無いと考える。「謝罪」問題については、上記③の内容で対応することとした。

- ⑤ パネルに関連して作成する付属資料について

ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、世界医師会宣言や、戦後50年に際して大阪府保険医協会、保団連が出した謝罪を含む声明など、重要な文献やインフォームドコンセントの解説文等はパネルに全て掲載出来ないので、パネルを補足する説明資料として作成することを検討する。

- ⑥ DGPPNのフランク・シュナイダー会長(当時)の談話「ナチ時代の精神医学—回想と責任」の引用、写真掲載の許諾

表記談話が『精神神経学雑誌』に掲載された。該当部分を当会のパネルに引用掲載するにあたり、この翻訳者・紹介論文の筆者である岩井一正氏に許可をお願いする。シュナイダー会長の顔写真の使用についても許諾手続きをとる。

- ⑦ 鹿児島民医連への引用許諾のお願いと回答について、鹿児島民医連2004年県連交流集会「戦争と医療」アンケート結果の引用許諾については、3月15日に許諾の返事を頂いた。

(2) 医学教育に関するアンケートの集計結果

① 原事務局員より、2011年に初めて実施された中国のアンケート集約について、江田憲治（京都大学）・いづみ（慶応大学）両先生による日本語への翻訳と集計のご協力をいただいたことと、原氏によるパネル発表用のまとめ作成結果の報告があった。

② アンケート集計結果の比較検討について

今回2011年の調査は前回2007年の日・独に中国を加え3カ国となるが、3カ国の結果比較を行う。独アンケート結果は、今回5大学と回答数が少なかった。前回、今回ともにアンケート項目が同一のため、前回の12大学の回答分との重複部分をのぞいて2回分を合体させて統計上の分析評価を行う。日本の場合も、前回44大学の回答に対して今回25大学の回答であり、比較上、同様に処理する。

3カ国の医学教育で特筆すべき内容は、パネルに反映させる。

3. パネル展示と国際シンポの企画について

(1) ティル・バステアン氏への招聘文（案）について

日本語文、英語翻訳文が提案され、英文は西山代表世話人の責任で修文の上、メール及び航空便にて発信することとした。

(2) 国際シンポ、展示各会場先との確認等について

国際シンポ、展示会場である京都大学ならびにミニ企画展を予定している立命館大学国際平和ミュージアムについては、次回世話人会迄の早い時期に下見と相談を行う。明治大学についても同様に展示協力をお願いをする。

4. その他

(1) 松村世話人からの報告と提案

① 731部隊による人体実験の中国人被害者、ならびに細菌戦被害者から提起された日本政府への賠償請求裁判の状況について報告があった。原告は死亡した方もおられるが、生存者は高齢病弱をおして裁判に臨んでいる。この度ようやく共同しての裁判となったことは画期的である。また、昨年明るみに出た金子順一論文は、731部隊による細菌戦犯罪を立証する重要な証拠であり、裁判のゆくえが注目される。

② 社民党の服部良一衆議院議員による国会質疑の予定

上記訴訟にも関連して、衆院外務委員会で社民党の服部議員による731部隊の問題での質疑が早ければこの4月にも予定されている。政府から一定の答弁を引き出す事ができるかが焦点である。

③ 「悪魔の飽食」合唱団コンサートに関して

4月30日に都内で開催を予定している同コンサートには、1300人ほどの参加者が見込まれる。731部隊問題に関心の深い参加者なので、会場で「戦争と医の倫理」の検証を進める会の趣意書等を配付するなど宣伝の機会としたい。

また、今回は2つのレクイエムが演奏される。「悪魔の飽食」と「海の孤島」である。後者は強制連行された朝鮮人137人のうち13人が海底トンネル水没事故で死亡し、

遺体も発見されていない。この事件は今年で70周年を迎える。これにちなみ記念の追悼集会在韓国からの参加者も予定し日本で開催され、合唱曲として歌われる。

(2) 人体の不思議展について「日本医師会生命倫理懇談会」の態度表明

原事務局員から、表記について報告。日本医師会の生命倫理懇談会（座長：高久文磨日本学会会長）が3月7日「遺体の扱いについて人の尊厳に反し、倫理的に認められない」とする報告をまとめた。従来の態度からの前進が見られる。当会関係者等の同展開催への抗議や申し入れなどの運動の一定の反映である。

(3) 「いま医の倫理を問う意味」（小俣常任世話人論文）

『世界』4月号の掲載論文を紹介した。

(4) 次回世話人会開催予定

4月22日（日）常任世話人会の予定を世話人会に変更し、会場も大塚、東京民医連会議室に変更。パネル案の最終確認を行う最後の会議として予定する。一人でも多くの参加を呼びかける。

以上